

## 九州地域における次世代ヘルスケア戦略に関する研究会

### 第2回 議事要旨

- ・ 医療分野において、データ流通の円滑化や効率化に関する制度設計と実践が進められており、様々な関係主体が関係した上で、新産業創出を踏まえた議論が進展しつつある。  
新産業創出に関して、制度整備により医療・介護に関わるデータ流通が進む中、差別化のための日常データの取得が1つのポイント。企業単位ではなく、地域単位での取組を進めていく余地も。
- ・ これからのヘルスケアビジネスは、保険者が持っているデータだけでは付加価値がつけにくくなるため、ウェアラブルなどの独自情報やデータの収集が重要に。医療情報のプラットフォームでは、管理、匿名化等の工夫により情報流通が促され新産業創出の糸口にも。
- ・ 医療分野では、AI を活用することにより遠隔医療(診療)などで、新しいアプローチが可能になっている。それに伴い地域や事業主体間の連携等による広がりを見つつある。より多くのニーズに応え価値を創出していく上で、オープンイノベーションの推進が重要。  
一方、医療機関とIT・エンジニア等の間で様々な要因でミスマッチが起こっている。アイデアやコミュニケーションを促すための受け皿や場、仕組みが地域には必要。
- ・ 介護保険だけに頼らず、本人が自分で保険外の健康サービスを買うという人達を増やして、サービスの最適化を目指していくことが肝要。その際に、地域のヒト・モノ・カネに着目し、上手にシェアすることでサービス提供を地域で行っていく仕組みが重要。